

# 調査相談(レファレンス)事例紹介 22



## Question

伊香保の郷土誌(史)『伊香保志』の著者は、大槻文彦氏と聞きました。大槻氏がなぜ群馬県の郷土誌(史)を書いたのか、経緯を知りたいです。



## Answer

大槻文彦(1847-1928)は、明治期の国語学者で、日本初の近代的国語辞典とされる『言海』の著者です。

大槻文彦が『伊香保志』(三分冊、1882(明治15)年発行)を執筆・編集した理由は、執筆依頼があったからなのですが、実は元々、文彦の兄・修二(学者・大槻如電)が受けた依頼でした。修二は執筆を承諾したものの果たせずにいたので、伊香保に行くことになった文彦に、代わりに執筆してほしいと頼みます。伊香保へ赴いた文彦は、修二に執筆を依頼した人物に改めて依頼されて、筆を取ることにしました。執筆を依頼した人物は、修二や文彦が伊香保滞在中に世話になった宿の主人である木暮八郎です。木暮八郎は、戦国時代に伊香保に土着した郷土・木暮氏一族で、当時、伊香保の有力者の一人でした。

ちなみに、文彦が伊香保を訪れたのは1879(明治12)年8月で、『伊香保志』の原稿は約1ヶ月間の伊香保滞在中に書き上げたそうです。1巻は東京から伊香保までの行程記など、2巻は伊香保の地理や温泉・名勝について、3巻は高山彦九郎の赤城日記の伊香保に関わる部分を抄出したものなど、伊香保に関する紀行文や詩歌が収められています。書き上げた当初の題名は『伊香保湯治志るべ』でした。また、挿絵は画家・長命晏春(ちょうめい あんしゅん)が描いています。これらの挿絵は執筆中に晏春を伊香保に呼び寄せて描いてもらったものだそうです。



## 参考文献

書名	責任表示	出版社	出版年	資料コード
① 復軒旅日記	大槻文彦/著 大槻茂雄/校訂	富山房	1938	01006816
② 伊香保志 上巻	萩原進/編集代表	みやま文庫	1989	01191147
③ 伊香保志 下巻	萩原進/編集代表	みやま文庫	1989	01009406
④ 伊香保志 巻1	大月栖霞/著	国文社	1882	02389633
⑤ 草津温泉の社会史	関戸 明子/著	青弓社	2018	12574869

今回ご紹介した他にも調査相談(レファレンス)事例をホームページに多数ご紹介しています。

【群馬県立図書館ホームページ>調査相談>調査相談事例・郷土人物データベース】

お問い合わせ：群馬県立図書館 〒371-0017 前橋市日吉町1丁目9-1 電話：027-231-3008